

京都市立堀川高等学校を視察して

浜松日体高等学校 加藤 学

教育課程専門委員会では、昨年度のICT教育研修による成果を踏まえて本年度の研修テーマを「総合的な探究の時間」とし、平成30年9月20日に堀川の奇跡としてその実績を誇る京都市立堀川高等学校を視察した。

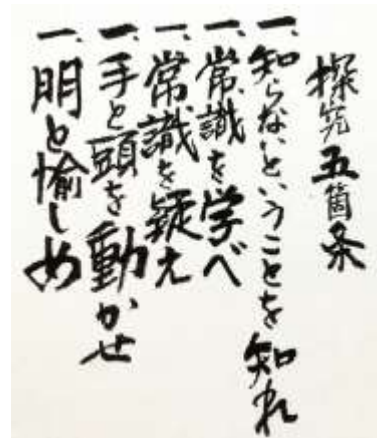
橋詰忍教頭先生による平成11年探究科発足以来20年に渡る自らの研究実績を踏まえたお話を伺うことができ、参加者7名探究学習の教育課程における位置づけや指導法の工夫、新学習指導要領導入による探究学習の新たな展望等々、質疑応答を含めて実り多き視察となった。

1. 研修目的

- ① 新学習指導要領の実施を前に、如何にかキュラムマネジメントを進めているのか。
- ② 課題探究型学習の取り組み・指導方法・独自の工夫・学習環境を視察する。

2. 沿革

明治41年 京都市立堀川高等女学校 創立
昭和23年 京都市立堀川高等学校 開校
平成11年 人間探究科・自然探究科 設置
平成11年 新校舎移転
平成14年 平成11年度入学生卒業
平成14年 SSH研究指定
平成26年 SGH研究指定



「荒瀬克己先生書」

3. 変革 平成11年（1999年～）

- ① 探究科を設置、専門学科になることで当時の学区制度、類・類型制度から学区内進学から外れ、府内全域から生徒通学が可能となる。
- ② 新校舎移転、教育改革を踏まえて1999年以前入学生の呼称を〇回生、1999年以降の入学生を1期生と呼ぶことにした。
- ③ 平成14年(2002年) 探求科1期生が卒業、国公立大学への現役合格者数を前年の6人から106人に増やし「堀川の奇跡」として注目された

4. 教育目標

① 校訓「立志・勉勵・自主・友愛」

立志：自らの可能性を信じ、開拓し、目標を高く掲げ、その実現に向かって取り組む。

勉勵：謙虚であることと懸命に努力を重ねることの大切さを知り、困難に立ち向かう姿勢を培う

自主：自らを見つめ、じっくり考え、適切な判断力と健全な批判力を養い、責任をもって行動する。

友愛：自分の周りの人やものを大切にするとともに、想像力を高め、他者を思いやる。

② 最高目標（豊かな学校を目指して）

校訓 「立志・勉勵・自主・友愛」 に示された自立、独立の人間形成を図るため、教育方針及び学校教育の重点に基づく教育活動の推進を通して、「豊かな学校」を構築し、「自立する18歳を育成する」ことを最高目標とする。

③ 最高目標実現のために「二兎を追う」

「目に見える力」 → 「知識習得型の学習」 = 大学合格のための学力

「目に見えない力」 → 「課題探究型の学習」 = 卒業後に自ら研究を進める姿勢や能力
= 常に目標を持って向上していく意欲
= 集団での協調性などが備わっていること

5. 構成 全日制普通科：80名(2クラス)、探究科160名(4クラス)

・普通科（2クラス）

基礎・基本を踏まえて高度な活用能力を身につけるとともに、探究能力を伸ばし幅広い教養を身につける学科。 高校2年次より人文探究コース・理数探究コースを選択

・人間探究科（2クラス）

人文系統の学習を深め、人間の文化や社会・行動などについて探究する能力と態度を養う人文科学・社会科学系の専門研究につながる学習を深める

・自然探究科（2クラス）

理数系統の学習を深め、自然の現象や原理・法則などについて探究する能力と態度を養う自然科学系の専門研究につながる学習を深める

6. 探究のサポート体制 教員：60～70名（年齢平均：30後半～40歳）

「堀川でやる。いる先生でやる。」

- ① 企画立案会議 ・ 学年団から主任1名+他2名←生徒観察
 (6名 週1時間) 研究部から3名←授業の狙い・振り返り
- ② 担当者会議 ・ 延べ12名+企画立案の6名
- ③ ゼミ（STEP） ・ 3名を1単位とし、3名×9ゼミ=約2～30名
 ※3名のうち1名は TA（ティーチングアシスタント）：外部講師・京大生等
- ④ 探究基礎委員会 ・ 生徒がつくる委員会（1学年：2～30名）

7. 探究基礎科目 普通科2学級・探究科4学級

答えが用意されていない問題に対処するために必要な姿勢・知識・技術を身につけることを目的とする堀川高校独自の授業。

① 週2時間・1学年と2学年の前期まで（普通科も含む）

② HOP → STEP → JUMP に分類される

- ・HOP →探究の「型」（探究の進め方や表現方法）を学ぶ。
※担当2名：担任1名＋国・数・英から1名
- ・STEP →探究の「術」（具体的な調査技法。実験・フィールドワーク・資料の見方など）を学ぶ。
※ゼミ選択：1グループ10人×9ゼミ、担当：2名＋ティーチングアシスタント
- ・JUMP →探究の「道」（実際に一人ひとつの探究活動を進めることで普遍的な探究能力を高める）を学ぶ。

情報取得の基礎学習から問題解決の体験を経て、論文作成に至るまでの取り組みを進める活動を通して生徒は自分の探究心に沿って学び、その延長としての進学先を考えることができる。

同時に探究基礎と平行して1学年と2学年で国語・数学・英語の基礎力をつけるために夏休み10日間、冬休み5日間の全員学習、土曜日を終日自習室（PST）として開放。模試、講演会等もこの時間をつかって実施している。

8. まとめ

生徒も学校も落ち着いた雰囲気のある堀川高校は、知識と思考を二兎として求められた荒瀬克己先生の探究5箇条「知らないということを知れ」「常識を学べ」「常識を疑え」「手と頭を動かせ」「朋と楽しむ」を軸に何事においても生徒の自主性を尊重し、18歳での自立に向けた探究活動が実践されている。校内の掲示板にも生徒自らの思考や発想を全体に投げかけては意見を求めるメッセージが残されており、日常的に主体的で対話的な学習活動が行われていることを見て取ることができた。生徒を取り巻く環境は、新学習指導要領による探究学習の導入、18歳への成人年齢引き下げなど、まさに堀川高校が具現化してきた教育活動を反映するかのように変化している。そんな中で先生の主体的で対話的な学びの普及により、本校のHOPは各教科に吸収されていくことでHOPがHOPでなくなっていくかもしれない、堀川も新たな探究の型を考えていかなければならないとお言葉が大変印象的であった。

視察校：学校法人京都外国語大学 京都外大西高等学校
〒615-0074 京都市右京区山ノ内苗町 37 番地
TEL：075-321-0712

視察日：平成 30 年 9 月 21 日(金)



1 学校概要

- (1) 建学の精神：「不撓不屈（ふとうふくつ）」
- (2) 校 訓：「強く、正しく、明るく」
- (3) 設 置：全日制課程普通科 [特進コース・総合進学コース・国際文化コース・体育コース]
- (4) 定 員：270 名／学年
- (5) 交 通：阪急「西院駅」、地下鉄「太秦天神川駅」「四条駅」、JR「京都」駅、京都市バス 他

2 教育計画

- (1) 合格力の強化と生活指導の徹底
 - ①難関大学の突破力を徹底強化するための「学習クラブ活動」
 - ②合理的で効率的な科目配置を行い新テストに即応
 - ③放課後の自主学習（午後 8 時まで）をサポート
 - ④朝の確認テスト、放課後と夏期休暇中には進学特別講習を実施
 - ⑤学力向上をめざし、年間 5 回の模擬試験を実施
 - ⑥勉学の充実のため、授業アンケートを実施
 - ⑦特に主要科目の英・数・国を重視し、徹底した実力養成を実施
 - ⑧はじめと規律のある高校生活、優れた勉学環境を実現
- (2) 取り組み
 - ①学生生活全体一いじめ防止対策基本方針
 - ②18 歳以上の生徒の選挙運動・政治活動
 - ③国際文化コース—ユネスコスクール、KGN UNESCO Journal、関西高校模擬国連

3 沿革

昭和 32 年 創設
昭和 55 年 外国語特進コース開設
昭和 58 年 外国語特進コースを特進コースに改める
平成 元年 国際文化コース開設

- 平成 2 年 体育コース開設
- 平成 7 年 国際文化コースBクラス開設
- 平成 15 年 普通コースをチャレンジコースに改める
- 平成 19 年 チャレンジコースをステラコースに改める
- 平成 29 年 特進コーススープリームを特進Ⅰコース、特進コースエクシードを特進Ⅱコース、ステラコースを総合進学コースに改める

4 国際文化コース (IC コース)

(1) 7つの IC スピリット

英語を「ツール(道具)」として使うだけではなく、異文化を受け入れ本当の意味での国際人になるための精神(スピリット)

- 学力の向上をはかる
- 自分の可能性を広げる
- 進取の精神を忘れない
- 地球的課題に目を向ける
- 課外活動に積極的に参加する
- リーダーシップを発揮する
- 何事にも協力的であれ



活動① 英語力を伸ばす

授業、ホームルーム、海外留学、模擬国連など

活動② 日本文化を知る

学校茶道、座禅体験、伝統芸能鑑賞など

活動③ ボランティア精神を身につける

コミュニティ・サービス(地域奉仕活動)、ユネスコスクール活動など

活動④ 自己実現をめざして将来を考える

進路研究、検定試験、進学補習など



(2) 活きた英語を学ぶ取り組み

- 8名(2018年4月現在)の外国人教師
- 外国人教師と日本人教師の2人担任制
- 1クラスを2~3分割した少人数授業
- 英語での発表や討論
- 京都外国語大学の図書館の利用
- 英語の資格試験への対策

4技能(読む・聞く・書く・話す)
を統合的に伸ばす教育

<テーマ学学習例>

- 1 年次 英語で自己紹介 (Me And My World)
ユネスコスクール活動 (The UNESCO Heritage City Research Project)
留学の準備 (New Zealand)
- 2 年次 地球的課題について (Global Issues)
留学の準備 (Canada)
- 3 年次 関西高校模擬国連大会
(The Model United Nations)
英語での表現力を鍛える
(Creative Expressions)



<特色ある行事>

- ◎英語スプリング・キャンプ (1 年次)
- ◎コミュニティ・サービス (1・2 年次)
- ◎模擬国連 (3 年次)

(3) 教育課程の工夫

A クラスー 京都外国語大学に優先的に推薦で進学するクラス

英語の授業は 3 年間で必修履修科目の約 35%を占める

高い英語力で次世代リーダーをめざす

2 年次にはカナダで海外研修 (7 週間 約 85 万円) を実施する

		English Understanding	English Expression	English Workshop	総合的な学習の時間	合計
		Input	Output	Reading・Listening	Research・Presentation	
1 年次	A	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	7 単位
	B	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	7 単位
2 年次	A	4 単位	4 単位	2 単位	1 単位	11 単位
	B	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	7 単位
3 年次	A	4 単位	4 単位	2 単位	1 単位	11 単位
	B	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位

※English Understanding は主にインプットの内容(読む・聞く)

※English Expression は主にアウトプットの内容(書く・話す)

※English Workshop は視聴覚教材を用いたスキルアップや人前で英語を話すパブリック・スピーキングの強化プログラム

Bクラスー 英語力を強みに、難関大学・学部をめざすクラス
多様化する国際社会に通用するバイタリティを養う
興味をもった学問分野を追求して自己実現をめざす
1年次にはニュージーランドで海外研修（5週間）を実施する

5 感想

30年近くの歴史をもち、特化した教育を展開することで、多くの優秀な生徒を輩出している。そうした自信が強く感じられた視察であった。また、教育課程の再編、バカロレア教育の研究、アクティブラーニングの推進など、将来に向けて学校改革の準備を進めており、伝統に頼ることなく挑戦していく姿勢は学ぶことが多かった。

報告者：専門委員 静岡北高等学校 村田卓久